

「ドン・ジョヴァンニ」参考資料のご案内

新国立劇場でのご観劇前に作品に対する理解の一助として、
また、観劇後の感動をさらに深めるために、
5階情報センター閲覧室にてご覧いただける参考資料を紹介します。
ぜひお気軽にお立ち寄りください。

過去の公演プログラム

いずれもウィーン国立歌劇場との共同制作。

1999/2000 SEASON **ドン・ジョヴァンニ** (2000.1)

2000/2001 SEASON **ドン・ジョヴァンニ** (2001.11)

参考図書

<対訳／作品解説>

モーツァルト ドン・ジョヴァンニ (名作オペラブックス 21)

アツティラ・チャンパイ ディートマル・ホラント＝編／音楽之友社 1988年発行

リブレットの対訳から、『ドン・ジョヴァンニ』作曲の経緯、初演時と20世紀の評価、ディスコグラフィまで幅広く網羅した資料集。

モーツァルト ドン・ジョヴァンニ (オペラ対訳ライブラリー) 小瀬村幸子＝訳／音楽之友社 2003年発行

台本テキストを数行単位で原語と日本語訳交互に記載しているので、CDやDVDを鑑賞しながら原文と訳文を同時に追うことができる。イタリア語の文法解説つき。

対訳 ドン・ジョヴァンニ (Don Giovanni Musica di W.A.Mozart)

河原廣之＝編集・校閲・注釈／オペラ読本出版 2005年発行

著者はスカラ座やフィレンツェ歌劇場日本公演の主任通訳を務め、二期会、オーチャードホールなど全国の主要歌劇場でイタリア語ディクションの指導、演出にかかわる傍ら、40冊を超えるオペラ対訳書を出版している。

ドン・ジョヴァンニ (イタリアオペラ対訳双書 25)

とよしま洋 ほか＝訳／アウラ・マーニャ イタリアオペラ出版 1988年発行

イラストオペラブック3 ドン・ジョヴァンニ 荻谷由喜子＝解説／株式会社ショパン 2006年発行

オペラの登場人物やあらすじ、見どころなどをイラスト付きでわかりやすく解説。

モーツァルトのドン・ジュアン P・J・ジューヴ＝著／高橋英郎＝訳／白水社 1970年発行

著者はフランスの詩人。第一部はユニークなモーツァルト論、第二部がモーツァルトのオペラ「ドン・ジョヴァンニ」の分析で、著者は主人公ドン・ジュアンのなかに、モーツァルトのすべてが集約されていると見る。

<作曲家関連>

新潮選書 恋愛哲学者モーツァルト 岡田暁生＝著／新潮社 2008年発行

絶対王政の没落と近代市民社会の到来という時代の亀裂の中でモーツァルトのオペラは華ひらき、バロック・オペラの予定調和的な世界を破壊し、男と女のエロスを歌った。

《ドン・ジョヴァンニ》を含む五つの傑作群をひとつの「恋愛チクルス」として読み解く、新たな音楽＝文化論。

モーツァルトの廻廊—MOZART CHRONICLE 2006 海老澤敏＝著／春秋社 2008年発行

とこしえの美しい響きに導かれて…モーツァルト受容の現在。“モーツァルト・クロニクル”最新論集。

モーツァルトのオペラ ルードルフ・アンガー・ミュラー＝著／吉田泰輔＝訳／音楽之友社 1991年発行

モーツァルトの22のオペラの作曲の経緯、初演から今日までの流れを追うことにより、時代とともに変容するモーツァルトのオペラの全貌を明らかにする。収録写真・図版約360点。没後200年を記念して出版された。

モーツァルトとダ・ポンテ ある出会いの記録

リハルト・ブレッツァツハー＝著／小岡礼子＝訳／小岡明裕＝補訳／アルファベータ 2006年発行

モーツァルトと台本作家ダ・ポンテによる不朽の名作「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「コジ・ファン・トゥッテ」。本書は、ふたりの出会いから、作品が完成し上演されるまでの過程を描くとともに、作品そのものを論じる。

モーツァルトの手紙 高橋英郎＝著／小学館 2007年発行

天才モーツァルトと父レーオポルトとの数百通の書簡を読み解いた大作。モーツァルトが幼少の頃より旅したヨーロッパ各地の地図、旅程表を集録、詳しい人物註付き。

モーツァルトの生涯 海老沢 敏＝著／白水社 1984年発行

モーツァルト(作曲家◎人と作品シリーズ) 西川尚生＝著／音楽之友社 2005年発行

<事典>

モーツァルト百科全書 福島章恭＝著／毎日新聞社 2006年発行

人生の哀しみを珠玉の名曲に結晶させたモーツァルト。その35年にわたる破天荒な生涯をたどりながら、折々に産み落とされた名曲を選びすぐりのCDで堪能する。モーツァルト生誕250周年記念出版。

モーツァルト全作品事典 ニール・ザスロー ウィリアム・カウデリー＝編／音楽之友社 2006年発行

モーツァルトの全作品についての歴史的エッセイを選び集成した、音楽愛好家のための利用しやすい参考書。

モーツァルト事典 海老沢 敏・吉田泰輔＝監修／東京書籍 1991年発行

モーツァルトの断片・草稿にいたる全ての作品と、その時代・社会・受容・演奏について最新の研究成果を盛り込んで詳細に解説。モーツァルト・ファンの座右の書。

モーツァルト大事典 ロビンス・ランドン＝原著監修／海老沢敏＝日本語版監修／平凡社 1996年発行

モーツァルト名曲事典 音楽之友社＝編／音楽之友社 1992年発行

<その他>

白水Uブックス ドン・ジョヴァンニ 音楽的エロスについて

ゼーレン・キルケゴール＝著／浅井真男＝訳／白水社 2006年発行

ドン・ジョヴァンニはなぜ誘惑しつづけるのか。モーツァルトを愛したひとりの天才哲学者が自身の耳をたよりに、音楽の根源にあるエロスについて考察する。

ドン・ジョヴァンニ－誘惑と裏切りの神話－

ジョナサン・ミラー＝編／柴田裕之＝訳／高橋英郎＝解説／白水社 1997年発行

世界文学史上もっとも豊穡な“神話”である『ドン・ジョヴァンニ』。気鋭の批評家8人が、物語の生まれた17世紀から今世紀に至るまでのドン・ジョヴァンニ像を、放蕩の歴史やフロイトの精神分析学などさまざまな道筋からたどる。

モリエール全集 1 鈴木力衛＝訳／中央公論社 1968年発行

ドン・ファンを題材にドラマ化された作品はモーツァルトのオペラ以外にも数多く、本書に収録の喜劇『ドン・ジュアン』(1665年発表)もその一つ。ほかモリエールの戯曲5篇を収録。

ドン・ジュアンとファウスト グラツペ＝著／小栗 浩＝訳／現代思想社 1967年発行

四幕悲劇の戯曲。モリエール、モーツァルト等のドン・ジュアン劇が世の賞讃を博した後の1828年に書かれた。

『ドン・ジョヴァンニ』、モーツァルトに関する書籍は他にも多数ございます。詳しくはお問合せください。

公演記録映像

ドン・ジョヴァンニ (2000.1.16) 【字幕入り】

ドン・ジョヴァンニ: ナターレ・デ・カロリス、ドンナ・エルヴィーラ: パメラ・コバーン

ドン・ジョヴァンニ (2001.11.16) 【字幕入り】

ドン・ジョヴァンニ: フェルツォ・フルラネット、ドンナ・アンナ: アドリアンヌ・ピエションカ

DVD

ドン・ジョヴァンニ ('54 ザルツブルク音楽祭)

ドン・ジョヴァンニ: チェーザレ・シエピ、ドンナ・アンナ: エリーザベト・グリェンマー

ドン・ジョヴァンニ ('02 エクサス・プロヴァンス音楽祭)

ドン・ジョヴァンニ: ペーター・マッティ、ドンナ・アンナ: アレクサンドラ・デショーティーズ